

大学史編纂課だより

第6号

2014年3月10日 発行

目次	
学祖新資料紹介	連載
◇学祖の書簡を発見！…………… 2	◇日大・オリンピック⑤…………… 4
◇学祖の書跡が寄贈される…………… 3	◇太平洋戦争と学徒⑤…………… 5



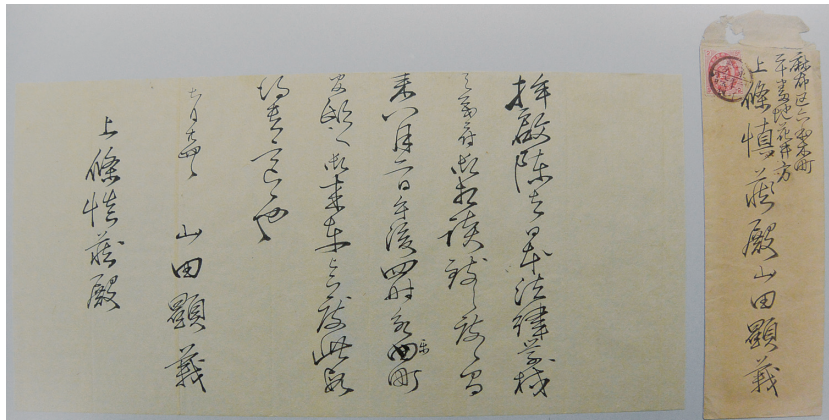
「箱館戦争官軍上陸の地」碑

明治2（1869）年4月、明治政府は、榎本武揚ら旧幕府勢力の集まる箱館（函館）を攻略するため青森に軍を集結。6日、海陸軍参謀山田顕義が率いた第一陣約1,500名は、運送船3隻に分乗して青森を出航。9日朝、江差北方の乙部村に上陸しました。榎本軍の抵抗は激しいものでしたが、後続部隊も上陸。海軍の支援も得て、政府軍は5月上旬には箱館周辺に集結しました。11日から陸海共同での総攻撃が開始され、18日、榎本軍の根拠地五稜郭は陥落し、「戊辰戦争」は終結しました。

北海道爾志郡乙部町の「箱館戦争官軍上陸の地」碑は、以前は国道228号線沿いに建っていましたが、平成22年3月に、海岸近くに移設されました。そこから国道までの道は、「官軍上陸通り」と名付けられています。



学祖の書簡を発見！一創立者上條慎蔵の生家を調査一



上條宛山田顕義書簡

上條慎蔵は日本法律学校の創立者の一人ですが、学祖山田顕義と11人の創立者のうちただ一人顔(写真)が分かりません。慎蔵は元治元(1864)年信濃国東筑摩郡新村(現長野県松本市新村)に、上條四郎五郎の三男として生まれ、明治13(1880)年司法省法学校に入学、21年帝国大学法科大学を卒業し翌年元老院に勤務。22(1889)年日本法律学校の創立に参画。28年頃司法省を退職し、

帰郷して病氣療養しましたが、明治45(1912)年2月逝去(49歳)。以上が『日本大学百年史』編纂過程で判明したことで、上條が日本法律学校の創立者の一員になった経緯も不明となっています。

上條家は、江戸時代は松本藩主戸田家の御典医(目の治療)で、明治時代には資産家として知られました。慎蔵の父四郎五郎は県議員・初代副議長、長兄謹一郎も初代新村村長から県議員、そして衆議院議員となりました。謹一郎の長男信(慎蔵の甥)は新村村長から県議員・衆議院議員となりますが、筑摩鉄道(現在の松本電鉄上高地線)や東筑電気株式会社を創立して筑摩平に電気をつけるなど、地元のインフラ整備に貢献した人物として知られます(以上『新村誌』平成22年発行)。

『松本親睦会雑誌』は、松本地方の出身者で組織される親睦会の会誌で、上條慎蔵の動向記事も載せられています。なにより慎蔵が親睦会の委員になっているのです。この会誌に載る記事から、慎蔵の動向を垣間見てみると、明治21年、この頃は東京の本郷4丁目日本間方に仮住まいしており、「帝国大学第一医院に入院治療」(第25号)と出てきます。その後退院し、会事務所の「矢ノ倉町戸田家」(旧松本藩主戸田邸)での委員会にも出席しています。23年になり、「内務省試補(年俸550円)警保局勤務」(第52号)。24年に「内務省図書局勤務」(第59号)、そして「宮崎県参事官(年俸1,000円)に栄転せらる」の記事がでますが、直後に「上條慎蔵君は先般辞職せられたるが今尚郷里新村に滞在中なり」(第63号)との記事が出て、その後上條に関する記事はなくなります。

このように、『松本親睦会雑誌』の動向から、上條は元来身体が丈夫ではなかったのかもしれませんが、そして、病気により辞職したのが明治24年だということも分かってきました。

以上の情報を携えて、新村の上條家を訪れました。現当主は信也氏で、偶然にも本学文理学部の卒業とのこと。写真アルバムが多数あり、おそらくは慎蔵も写っていると思われるのですが、特定できません。信也氏も父・祖父から聞かなかったので、顔が分からないそうです。

残念ながら、今回は上條慎蔵の顔は特定できませんでしたが、書簡類に学祖山田顕義が上條に宛てた書簡が1通ありました。7月24日付けで「日本法律学校について相談したいことがあるから官邸まで来てほしい」という内容で、消印をよく見ると明治22年と判断できます。即ち、創立に関する相談ではない



上條慎蔵墓碑



封筒の消印部分

かと推測できます。山田顕義が、日本法律学校創立以前に「日本法律学校」の名を記した書簡・書類などはこれまでなく、おそらくは本書簡が初見ではないかと思われます。

※今回の調査では、松本大学基礎教育センター福嶋紀子氏、信州大学教授山本英二氏から、上條慎蔵に関わる情報の提供をいただきました。御礼申し上げます。

(田淵)

学祖の書跡が寄贈される 山田顕義漢詩書幅

平成25年8月、鳥取県在住の芸術学部OB秋田芳郎氏から、学祖山田顕義の書幅の寄贈を受けました。書かれているのは、雪が降った後の山荘からの眺めを詠んだ七言絶句です。芳郎氏のご先祖は、明治維新で活躍した人物の書などを収集しており、その中の一幅に山田顕義の漢詩が含まれていたとのことでした。

(高橋)

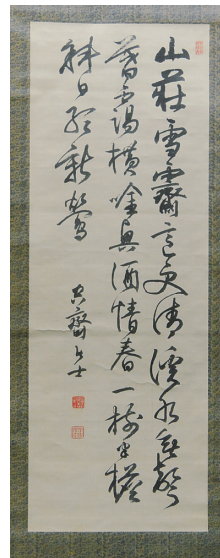


(白印)

山田 顕義 之印

(朱印)

空齋 居士



山莊雪霽意更清 溪水無聲暮靄橫
 唼奧酒情春一樹 半檐斜日聽新鶯
 空齋居士 印

商学部での大学史展示



平成25年7月28日、商学部でのオープンキャンパスに際してパネル展示「日本大学を知ろう～学祖 山田顕義を学ぶ～」を開催しました。会場は、2号館2階の大講堂前の通路を利用し、①学祖②日本大学の歴史③日本大学出身の著名人の3コーナーを設けました。

キャンパスツアーのコースにも含まれており、ガイド役の学生たちも当課員と共に説明に当たってくれました。

連載 日大・オリンピック⑤

日本選手メダリスト

金	小野 喬	体操 (跳馬・鉄棒)
	相原信行	体操 (徒手)
	相原・遠藤・小野 竹本・鶴見・三栗	体操 (団体総合)
銀	三宅義信	ウエイトリフティング
	松原正之	レスリング
	山中毅	競泳 (400m自由形)
	大崎剛彦	競泳 (200m平泳ぎ)
	石井・福井 藤本・山中	競泳 (800m自由形リレー)
	竹本正男	体操 (鉄棒)
	小野 喬	体操 (個人総合)
銅	田中聡子	競泳 (100m背泳ぎ)
	大崎・清水 富田・開田	競泳 (400mメドレーリレー)
	田辺 清	ボクシング
	吉川貴久	射撃 (フリーピストル)
	鶴見修治	体操 (あん馬)
	小野 喬	体操 (吊り輪・平行棒)

本学選手では、松原選手（経済学部4年）がレスリング（フリースタイル・フライ級）で銀メダルを獲得しました。レスリングチームは、ローマ入り前にレスリング強国トルコに寄り、地元選手と強化練習を行なっていますが、第一試合の松原の相手がトルコのビレク選手（金メダル）で、オリンピック

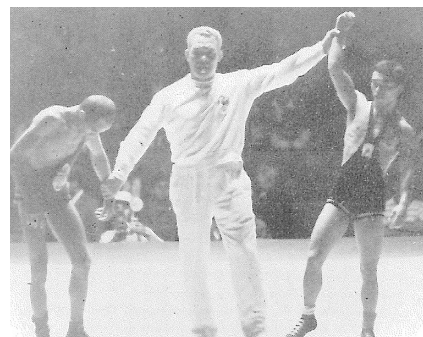
本学派遣選手

水泳部	富田一雄	経済学部 4年	背泳
	石原勝記	経済学部 4年	自由形
	渡辺和夫	経済学部 4年	背泳
	石井 宏	経済学部 3年	自由形
	金戸俊介	商学部 3年	飛込み
	青山礼三	経済学部 3年	水球
	藤本重信	法学部 3年	水球
	柴田 徹	法学部 2年	水球
	増田 勲	OB	平泳ぎ
	馬淵 良	OB	飛込み
	宮村元信	OB	水球
	高木弘毅	OB	水球
	山野外嗣夫	OB	飛込み
陸上競技部	菅原武夫	経済学部 4年	ハンマー投げ
	杉岡邦由	経済学部 1年	走り高跳び
	内田弘子	OG	円盤投げ
体操部	曾我部和子	文理学部勤務	
	遠藤幸雄	文理学部勤務	
レスリング部	松原正之	経済学部 4年	フライ級
自転車部	大宮政志	経済学部 2年	ロードレース

第17回オリンピック競技大会は、昭和35（1960）年8月25日～9月11日までイタリアのローマで開催されました。83ヶ国・地域から、5,338名の選手が参加した五輪史上最大規模の大会となりました。日本選手団は、次の第18回大会が東京で開催されることが決定し強化の途上にあつたため、総員219名と戦前の第11回ベルリン大会の249名に次ぐ大代表団となりました。

本学からの代表選手は下表の通り、水泳・陸上・体操・レスリング・自転車競技にOB等を含め20名の選手と、柴原恒雄（飛込みコーチ）・小久保勘太郎（国際審判員）・柴田勝治及び平野平三（視察員）など7名が役員として派遣されました。

ローマ大会では、日本の金メダル4個すべてが男子体操によるもので、その活躍ぶりが注目された一方で、前回メルボルン大会で金メダルを獲得し、今大会も期待された水泳やレスリングをはじめ他競技が振るわず、東京大会へ向けて課題を残すことになりました。



『体育年鑑』より

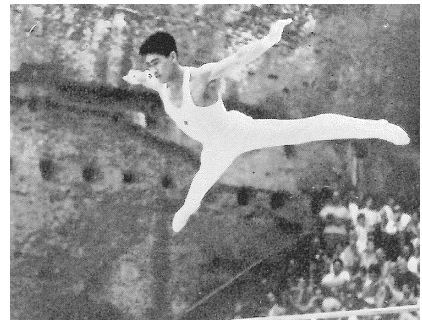
の雰囲気呑まれて自分のペースを忘れ判定負けしてしまつたと振り返っています（昭和35年度日本大学体育会『体育年鑑』）。その後の試合は順当に勝ち進み、決勝リーグでの2位・3位決定戦でイラン選手を破って銀メダルを獲得したのです。

水泳では、石井選手（経済学部3年）が第2泳者で出場した自由形800mリレーで銀メダルを獲得しています。このリレーで石井は自己最高をマークし、チームは8分13秒3の世界新記録を出しての2位でした。400mメドレーリレーに出場した富田選手（経済学部4年）も銅メダルを獲得しています。また、飛込みでは、山野選手が飛板飛込みで7位、高飛込みで金戸選

手が10位、馬淵選手が13位でした。水球には5選手が出場しましたが、残念ながら予選リーグで敗退しました。

活躍著しい体操では、遠藤選手が個人総合と跳馬で5位、鉄棒4位、そして団体総合で金メダルに輝きました。曾我部選手も女子団体で4位に入賞しています。

(田淵)



『体育年鑑』より

❏ 太平洋戦争と学徒⑤



学徒援農記念碑（函館護国神社）

これまでは、学徒兵を中心とした話題でしたが、今からは、学校に残った学徒たちが従事した勤労働員について紹介します。

政府は、「国民精神総動員運動実施要綱」の実践の一つとして、中等教育機関以上の学徒に集団勤労働員作業運動を導入する方針を打ち出し、昭和13（1938）年6月9日の文部次官通牒によって開始しました。しかし、実施決定が急だった事もあり、当初は周辺道路の清掃といった公衆道徳的な作業でした。

次第に、食糧増産のための農作業や軍需工場へ派遣されるなど本格化し、各教育機関で奉仕隊や報国団が結成

されると、これらの組織を通じて勤労働員が実施されます。昭和17年の7月・8月には、文部省学校報国団本部などの主催で食糧増産のための講習会が実施され、日本大学各科からも数名ずつ参加しています。内容は農作業や酪農などで、北海道や樺太でも開催されています。

昭和18年6月に閣議決定された「学徒戦時動員体制確立要綱」により、勤労働員体制は強化されます。同年10月10日から11月10日にかけて文部省の命により、世田谷の予科報国隊員第1集団（1年生）430名は、北海道5カ所での援農作業に動員され、稲刈り・ジャガイモ取りなどの農作業に従事しました。

参加者の一人牛込源晃氏（昭和23年法文学部文学専攻卒）は、札幌郊外の琴似村に派遣され、屯田兵の子孫の家に宿泊しました。派遣に際しては、宿泊先の家庭ではまずはおばあさん、おばあさんがいない家では奥さんに気に入られるようにとの指導を受けたそうです。

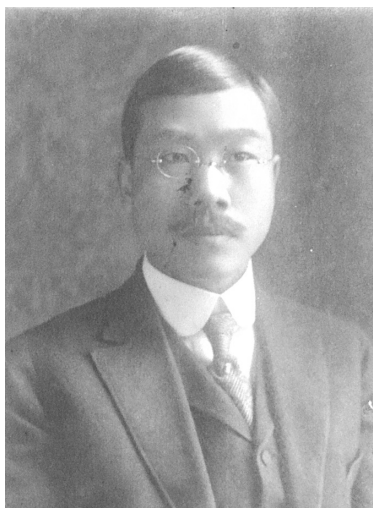
16日、江別町に派遣された生徒の岩川輝彦が壊疽性アンギーナを発病、札幌の帝国大学病院に入院して手術を受けましたが死亡しています。10月24日、世田谷の予科講堂において彼のための盛大な葬儀が挙行されました。

(高橋)



北海道での予科援農の記念写真（牛込源晃氏蔵）

外交官大田為吉・弁護士中田正子の調査 一鳥取市一



大田為吉
(恩田靖久氏蔵)

日本大学は社会で活躍した多くの人たちを輩出していますが、今後このような校友などの調査も重要であると考えています。そこで、今回は鳥取市において、日本大学出身者で唯一の特命全権大使（大使）となった大田為吉と、日本大学法文学部に学び、日本初の女性弁護士となった中田正子の調査を実施しました。

大田為吉は、明治13（1880）年に鳥取県^{けたか}気高郡青谷村（現鳥取市）に生まれました。鳥取中学を2年で中退し、苦学して明治34（1901）年に日本法律学校を卒業しました。

明治36年に高等試験行政科、明治40年には同外交科に合格し外交官となりました。小村寿太郎外交の中心人物であった山座円次郎の指導を受け、



大田為吉の生家

後に首相となる広田弘毅・吉田茂とともに「山座門下の三羽鳥」と称されました。最初の赴任地の香港を皮切りに、昭和12（1937）年に退官するまで、アメリカ・中国・スペインなど海外に長く勤務しました。その間昭和7年にはソ連大使となり、激動する時代の外交を担いました。戦後は日本大学校友会会長を務めています。

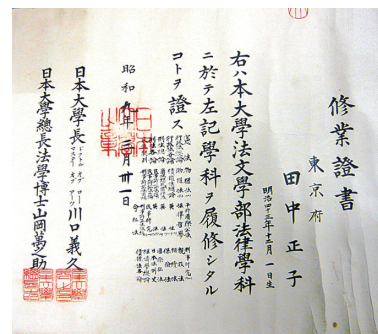
大田については、野崎欽五氏（鳥取市埋蔵文化財センター所長・校友）の案内により、出身地の青谷で、親戚である恩田靖久氏の聞き取りと、生家・大田家墓所などを調査しました。恩田氏からは資料や写真も見せていただき、また大田家から日本大学に通った従兄弟の山田忠男氏（東京在住）を紹介いただき、後日山田氏からも話を聞くことができました。

中田正子は、明治43（1910）年に東京に生まれました。昭和6（1931）年に日本大学法文学部選科生となり法学を学び、その後、明治大学専門部女子部法科を卒業しました。昭和13（1938）年に高等試験司法科に合格、昭和15年には女性初の弁護士となり、夫の実家のある鳥取市で長く弁護士として活動しました。



中田正子
(鳥取市歴史博物館蔵)

中田については、鳥取市歴史博物館所蔵の「中田正子関係資料」を調査しました。そのなかから本学に関する「日本大学修業証書」、「日本大学賞状」、「日本大学女子学生会の写真」などを撮影しました。また、同館学芸員奥村寧子氏の案内により、中田正子法律事務所跡を調査しました。



日本大学修業証書
(鳥取市歴史博物館蔵)

(小松)

企画展「近代日本の幕開けと私立法律学校—神田学生街と法典論争—」を開催

平成26年1月24日（金）から2月28日（金）まで、神田の街とともに歩んできた専修大学・中央大学・日本大学・明治大学の大学史資料をもとに「近代日本の幕開けと私立法律学校—神田学生街と



展示風景

法典論争—」展を神田駿河台の明治大学博物館特別展示室で開催いたしました。

今回の企画展は、明治期に形成された神田学生街や明治中

期の法典論争を中心とした内容で、4大学のアーカイブズ（大学史編纂部署）が共同で実施した初の企画展となりました。詳細については、次号であらためて紹介いたします。



会場入口

全国大学史資料協議会2013年度総会ならびに全国研究会

平成25年10月10日～12日、明治大学駿河台キャンパスで全国大学史資料協議会の総会ならびに全国研究会が開催されました。今回の全国研究会は「大学史資料の活用と展示」というテーマで、各大学が実施している大学史展示について、さまざまな角度から報告がありました。

専修大学大学史資料課の瀬戸口龍一氏は、地域と連携した大学史展示に関する報告で、展示室を持たない当課においては大変参考となる報告でした。早稲田大学大学史資料センターの望月雅士氏は、展示テーマとしては扱いにくい「戦争」について、同センターがこれまで実施してきた展示事例と今後の課題などについての報告でした。同大学は早くから戦争犠牲者数の調査を実施しており、対象範囲の設定や複数の資料照合の必要性などの課題についても言及されました。関西大学学術情報事務局の熊博毅氏は、展示室設置までの経緯と展示を通しての自校史教育について報告されました。現在所蔵している大学史資料を活用するだけでなく、将来の展示を視野に入れた資料収集を行っているとの発言が印象的でした。

大学史資料の調査・研究成果を示す手段として展示はとても有効ですが、一方で見学者からの情報提供などを通じて、さらなる資料情報の集積にもつながります。当課においても、所蔵資料を活用した展示の機会を今以上に増やしていければとあらためて考えさせられた研究会でした。



母校に関する資料が皆さんのそばに眠っていませんか

資料・情報提供のお願い

大学史編纂課では、「日本大学史」に関する資料を広く収集しています。本学の歴史・学生生活・校友の足跡等のようなことでも結構ですので、お気軽に大学史編纂課（TEL 04-2996-4555 FAX 04-2996-4592）までご連絡ください。

活動報告

平成25年4月～9月

○調査研究

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 5月2日 | 学祖関係史跡調査（東京都：浄光寺 他） |
| 5月29日 | 全国大学史資料協議会東日本部会2013年度総会（中央大学） |
| 6月19日～21日 | 大田為吉及び中田正子関係資料・史蹟調査（鳥取県鳥取市） |
| 7月10日～12日 | 上條慎蔵関係資料・史蹟調査（長野県松本市） |
| 9月12日 | 学徒兵関係資料調査（東京都：須田清法律事務所） |
| 9月25日～27日 | 山田顕義関係資料・史蹟調査（北海道函館市・爾志郡乙部町） |

○展示・普及

- | | |
|-------|----------------------------------------|
| 4月5日 | 商学部新入生オリエンテーションプログラム（FOP）での山田顕義及び大学史展示 |
| 4月10日 | FM山形放送からの日本大学の歴史に関する取材（放送は5月3日） |
| 7月28日 | 商学部オープンキャンパスでの大学史展示 |

○講演

- | | |
|------------|-------------------------------|
| 4月5日 | 理工学部（同学部スポーツホール） |
| 4月10日 | 日本大学東北高等学校（磐梯熱海温泉「華の湯」） |
| 4月12日 | 日本大学豊山中学校（同校体育館） |
| 4月13日 | 日本大学豊山高等学校（同校体育館） |
| 4月25日 | 日本大学鶴ヶ丘高等学校（同校体育館） |
| 5月9日 | 佐野日本大学学園（同校講堂兼体育館 プラザ40） |
| 5月16日・23日 | 商学部（同学部1501・1503・1601・1602教室） |
| 5月28日・6月4日 | 国際関係学部（山田顕義ホール） |
| 6月8日 | 日本大学三島高等学校・中学校（国際関係学部8号館講堂） |
| 8月27日 | 宮崎日本大学学園（萩市「萩本陣」） |
| 8月28日 | 薬学部（同学部8号館821B教室） |

大学史編纂課だより

第6号

2014年3月10日 発行

編集・発行 日本大学広報部大学史編纂課
〒359-0003 埼玉県所沢市中富南4-25
TEL 04-2996-4555 FAX 04-2996-4592

印刷 株式会社 文成印刷

(2014.3.10 5000)